

## 新たな活動ビジョン策定に向けた検討

### 1. 新たな活動ビジョン

#### 1) ミッション

「みんなの“My”博物館—地域の歴史・自然・文化を今と未来に活かす—」

博物館業務と文化財保護業務を行う当館独自の活動ビジョン

(令和8年度～17年度〔開館28～37周年〕における活動を想定)

- ・ 地域の歴史・自然・文化を守り、今と未来に活かすための事業展開を行う。
- ・ 利用者個人とのかかわりを大切にし、1人1人が「自分の」博物館と思えるような、親しみのある博物館を目指す。

#### 2) 活動方針：「飛鳥山イズム」の継承と発展

「飛鳥山イズム」＝開館以来、培われてきた活動姿勢

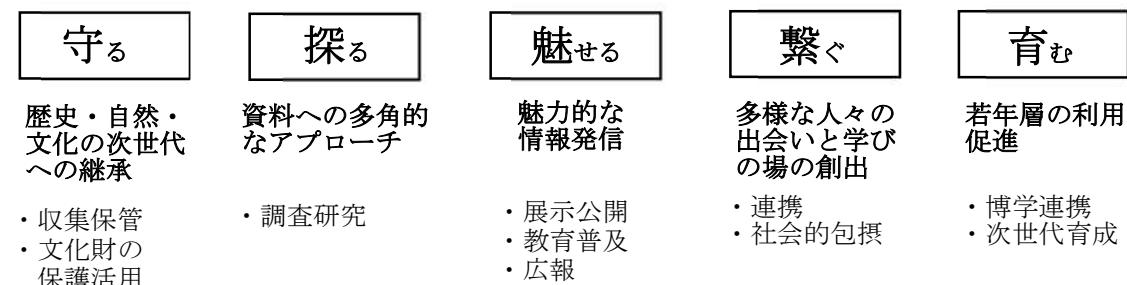
- ・ 時代を読み、新しいことに積極的に挑戦するチャレンジ精神
- ・ 普及事業を重視した博物館活動

⇒ 5つの活動の柱における重点目標の達成によって、「博物館」としての使命を果たす。

#### < 5つの活動の柱 >

- ▶ 守る
- ▶ 探る
- ▶ 魅せる
- ▶ 繋ぐ
- ▶ 育む

#### 飛鳥山イズムの継承と発展



### 3) 活動の柱と重点目標

活動の柱		重点目標	
守る	歴史・自然・文化の次世代への継承	収集保管	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収蔵状況の見直し</li> <li>・収蔵資料のデジタル化</li> <li>・近現代資料の収集</li> </ul>
		文化財の保護活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定文化財等の保護活用</li> <li>・文化財の調査・記録・指導助言の拡充</li> <li>・文化財公開事業の推進</li> <li>・無形民俗文化財の継承</li> </ul>
探る	資料への多角的なアプローチ	調査研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常設展示リニューアルの予備調査</li> </ul>
魅せる	魅力的な情報発信	展示公開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より新鮮で満足度の高い事業、時代性を意識した展示の開催</li> </ul>
		教育普及	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル化の推進</li> <li>・地域ブランド力向上への貢献</li> </ul>
		広報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル化の推進</li> <li>・地域ブランド力向上への貢献</li> </ul>
繋ぐ	多様な人々の出会いと学びの場の創出	連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆるやかなコミュニティの構築</li> <li>・組織内外の諸機関や団体との連携強化</li> </ul>
		社会的包摶	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多言語対応の充実</li> <li>・障がい者対応の強化</li> </ul>
育む	若年層の利用促進	博学連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区内学校の利用促進</li> <li>・学校現場との連携強化</li> </ul>
		次世代育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博物館における社会経験の提供</li> <li>・課外活動の場としての利用促進</li> <li>・育ちの場の創出</li> </ul>

### 「5つの活動の柱」と重点目標

#### 2. 具体的な活動内容の検討

令和6年度第2回：「繋ぐ」「育む」

（「守る」「探る」「魅せる」は、次回〔令和7年度第1回〕を予定）

#### 1) 繋ぐ：多様な人々の出会いと学びの場の創出

##### ①連携

- ・ゆるやかなコミュニティの構築

【現状】「あすかやまダイレクトメールメンバーの会」の設置および運営（友の会、ボランティア等団体の設置はない）

【目標】登録・選択制ボランティア制度やファンクラブ（仮称）の検討

【懸案】事務局の体制づくり

- ・組織内外の諸機関や団体との連携強化

【現状】大学等の教育機関との連携

【目標】他領域との連携・関係強化

【懸案】連携先の摸索

## ②社会的包摶

- ・多言語対応の充実

【現状】常設展示 外国語版リーフレットの配布（英語／中国語〔簡体字・繁体字〕／韓国語／フランス語）、常設展示 音声ガイドの貸し出し（英語／中国語／韓国語）

【目標】館内リニューアルに向けた多言語対応の再検討

【懸案】対応範囲の設定、ツールの選択

- ・障がい者対応の強化

【現状】施設のバリアフリー化の順次整備、団体見学の個別対応

【目標】個人利用にも対応したコンテンツ作り

【懸案】将来の大規模改修を視野に入れた改善点の洗い出し

## 2) 育む：若年層の利用促進

### ①博学連携

- ・区内学校の利用促進

【現状】団体見学の受け入れや出張授業の実施、資料の貸し出しの実施（団体見学は区外からの利用が多い）

【目標】北区内小中学校の利用率向上（資料貸出キットの再検討、さまざまな教育機関や団体等の受け入れ態勢の強化など）

【懸案】周知、大規模校への対応（施設面、人員体制面）

- ・学校現場との連携強化

【現状】個別対応による出張授業や資料貸し出しの実施

【目標】「博学連携委員会」に代わる新たな連携方法の構築、「先生のためのオーブンミュージアム」の継続開催

【懸案】周知、人員体制

### ②次世代育成

- ・博物館における社会経験の提供

【現状】博物館実習やインターン、学芸員体験の受け入れの実施

【目標】博物館実習やインターンの継続的受け入れ、進路選択（高校生・大学生等）のサポート体制の構築

【懸案】人員体制

- ・課外活動の場としての利用促進

【現状】小中学生向け体験講座の開催、「北区ジュニア考古学クラブ」の実施

【目標】自然や地理など、さまざまなジャンルにおける活動の場の提供

【懸案】人員体制

- ・育ちの場の創出

【現状】高齢者を中心とする利用（ただし入館者に占める親子連れの利用率は高い）

【目標】親子連れの、本来的な「博物館」利用の促進

【懸案】親子連れも楽しめる空間やコンテンツ作り